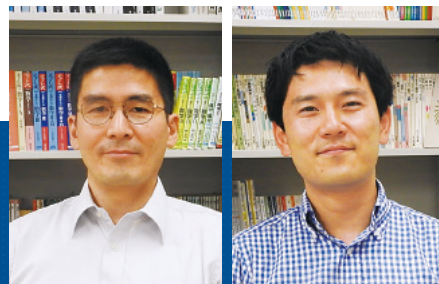


進路を考えるきっかけ作りや、 大学・学部研究の選択の幅を広げるために、 “GAKUTAN”の判定結果を活用

東京都 海城中学高等学校

高校第一学年 主任 小澤 嘉康先生(左)
高校第一学年 福島 俊和先生(右)



海城中学高等学校は、開校から128年の伝統を誇る完全中高一貫制の男子校です。都内有数の進学校であり、例年、医学部をはじめとした理系進学者が多い点が進路の特色となっています。早くから、「新しい人間力」として“対話的・協働的な能力”を、「新しい学力」として“課題設定・解決能力”を教育カリキュラムに掲げ、多様化した価値観とグローバル化の波が押し寄せている昨今の社会の中で、自ら考え、主体的に動ける生徒の育成を推進しています。



—「進学適性検査 GAKUTAN」(以下GAKUTAN)は、 何年生を対象に、いつ頃実施されましたか？ また、ご活用の目的は？

小澤先生 高校1年生全員 320名を対象に、5月の中間試験の初日に実施しました。本校では高2から文理コースに分かれますが、そのため高1の10月から12月にかけて文理選択を行います。最近の生徒の特徴として、教師が「自分で考えて文理を決めなさい」と言っても、なかなか決めにくいという傾向があります。そこで、外からいろいろと刺激を与えるための取り組みを行っています。その一つが「GAKUTAN」の実施です。

高1での進路学習の第一段階として、まずは進路を考えるきっかけ作りのため「GAKUTAN」を活用します。

また、例年、7月に東京で開催される大学進学志望者向けイベント「夢ナビライブ」(文部科学省後援。本年は6月に開催 ※1)に、高1生を参加させているのですが、どの講義や大学の説明会を受けるのかを、「GAKUTAN」の結果も参考にして決めさせます。そのために、事前に生徒に結果が返るように、5月に実施しています。

「GAKUTAN」は、自分で見えていなかった自分を見ることがもできます。自分は理系だと思っていたけれど、検査の結果で法律や経済も向いていると出るケースもあります。結果を見て、自分が考えていなかった分野に適性がでていたら、その分野の講義も見てくるように予定を立てさせます。それによって、自分の選択の幅が広がるというこ

とにつながるのです。

—他にも判定結果を活用した場面があればお教えください。

福島先生 本校の場合、「GAKUTAN」の判定結果の活用方法は、基本的に各担任の裁量にまかされています。私のクラスの場合は、「夢ナビ」が終わったあとに二者面談を行い、その中で判定結果についての話もしました。まだ1学期なので、文理選択の話のきっかけに利用したという感じでした。教師用の一覧表を準備して、面談に臨みました。

その後、6月の終わりにかけて保護者面談を行いました。そこでは判定結果を見せるということはしませんでした。生徒たちも、進んで保護者に見せることは少なかったようでした。

—判定結果を返却した際の、生徒さんの反応はいかがでしたか？

福島先生 生徒たちは皆、に食い入るように見っていました。おそらく、今まで、自分の能力を項目立てて判定されたことがなかったからだと思います。また、学問適性については、これまで知らなかった具体的な学問分野については、数値化されることに新鮮な発見があったようです。考え通りの判定結果がでたらうれしいでしょうし、違っていたら「なんでだろう」と思ったり、逆に受け入れられなかったり、いろいろな反応がありました。基本的には結果が出てきて評価されるということに対し、生徒たちは楽しんでい

▲一覧表・統計表(教師用)

▼アドバイスシート(生徒用)

かもしれません。生徒同士で結果を見せ合いながら盛り上がっていました。

さらに、大学進学について、自分と家族の意見を聞く質問で、「通学範囲(自宅か自宅外か)」「浪人可否(可能か不可能か)」を選ばせる項目があります。これまで考えたことがなかった生徒が多かったようで、戸惑いながら、そのことについて保護者と話し合ったという話も聞きました。このような前向きな反応を起こしたという点でも、検査実施の効果があったと評価しています。

一文理判定が検査と生徒の希望とで異なった場合、どのように指導されましたか？

小澤先生 理系希望なのに文系の方に適性が高く出ても、そこで迷ったりせず、むしろ「自分は文系も向いているんだ」と自信を深めて、理系に進むといった生徒がいました。もちろん、文理選択を悩んでいる生徒にとっては迷う材料になるかも知れませんが、迷うことは良いことだと思います。最終的には生徒の判断にまかせています。いずれにせよ、検査を実施することによって客観的な自分を知ることが、いい機会だったと思っています。

一生徒用の資料『GAKUTANブック』はいかがでしたか？

福島先生 『GAKUTANブック』は「夢ナビ」に行く前に読ませました。『ブック』には、いろいろな学問の説明がありますが、例えば「経済学」と聞いていたものが、『ブック』を読んでもみると「経営学」とか「商学」とか組織論も関係するということがわかります。そんな発見が「夢ナビ」での講義選択に生かされたようです。

また、本校は中高一貫校ですが、中学校では具体的な職業に関する指導は、前面に出して行ってはおりません。素

朴に、将来は医者とか弁護士とか、漠然とした知識を持って高校に上がってくる生徒が多いです。

『GAKUTANブック』には、大学の情報だけでなく、資格や職業の情報も充実しています。まだ進路に対する知識が少ない入学当初の高1生にとっては、『GAKUTANブック』を読むことで、単に進学先の大学や学部の情報だけでなく、その先の職業・資格について、具体的に知ることができず。高校生活の始めに、将来を見据えた進路について考える段階へ、いい切り替えができたのではないかと考えます。

一その他に1年生でのキャリア教育の取組についてお教えてください

小澤先生 7月に、高校卒業後10年たった社会人OBの講演会を開き、仕事選びや、社会に出て働くことについて話してもらいました。さらに10月には、つい最近卒業したばかりの現役大学3・4年生を招き、大学選びで悩んだこと等を話してもらいました。高1生にとっては、まさに今悩んでいることについて話してもらえるので、一番身近で、参考になるアドバイスとなります。その先輩も、自分が在学中にOBの大学生の話聞いて役に立ったと言っていますので、代々つながりの強い取り組みであるということを感じます。そのためOBも、比較的時間が調整しやすい大学生は、喜んで参加してくれます。

※1)夢ナビライブ2019は東京・大阪・名古屋・仙台・福岡の全国5会場で開催する国立・私立大学が多数集結する合同進学ガイダンスです。大学個別説明ブースや学問の講義ライブなどが行われます。

(令和元年10月3日取材/文責・実務教育出版 三浦俊哉)